

平成 26 年度の主な事業報告

社会福祉法人藤枝すみれ会

社会福祉事業

東部すみれの家（生活介護）

生活介護単独事業所としての2年目を迎え、支援の充実と活動内容の確立を課題にして取り組んできました。

- ・一人ひとりの表現力を生かす創作活動を通してできた作品の展示会や製品化に積極的に取り組み、利用者の頑張りや輝きを地域に発信するよう努めてきました。
- ・「ふじのくに型サービス」を意識して中学・高校・大学生、高齢者、地域のボランティアの方々など様々な方々が集う交流活動を引き続き推進しました。
- ・送迎サービスは、2台の車を使って稼働率を高め、送迎加算（Ⅱ）13単位を受けるようになりました。

西部すみれの家（就労移行・就労継続B）

新設の事業所としての安定的な運営と地域のコミュニティへの参加を課題にして取り組んできました。

- ・就労移行では、訓練プログラムを見直し、立ち仕事に合わせた作業台の設置や清掃マニュアルに基づく清掃訓練やごみ回収訓練の導入などにより働く力の育成に努めました。また、計画的な職場実習の実施を通して、2年目の利用者3人が全員就職することができました。
- ・就労継続Bでは、利用者が新しい環境に慣れるにしたがって、下請作業の取引業者が増えるなど安定化し、目標工賃を達成することができました。
- ・焼菓子製造も地域の行事への積極的な参加や販路の拡大を通して、西部すみれの焼菓子として定着してきています。

南部すみれの家（生活介護・就労継続B）

新設の西部すみれの家に就労移行サービスと8人の利用者が移ったため、南部すみれの全体行事や自主作業の園芸の進め方、下請作業の受入量の見直しなどが必要になり、新生南部すみれの家の活動内容の検討を課題にして取り組んできました。

- ・介護では、多様な実態の利用者一人ひとりのニーズに応じた活動を心掛けるなかで、調理、ミシン、買い物などの個別の活動が充実していきました。
- また、保護者の要望が高かった日中一時支援（施設延長利用）を12月から始めました。

- ・就労Bでは、一人ひとりの特性や得意な力を生かした作業分担を進める中で、自信を持って取り組む姿が育ち、仲間同士協力する意識も高まっていきました。

北部すみれの家（生活介護・就労継続B）

新設の西部すみれの家に焼菓子製造と6人の利用者が移ったため、新しい自主製品の開発や下請作業の受入量の見直しなどが必要となり、新生北部すみれの家の活動内容の検討を課題にして取り組んできました。

- ・介護では、年齢幅の広い利用者さんの実態を踏まえ、グループ編成を工夫しながら活動を展開しました。新しく取り入れたリトミックやスポーツ教室には、利用者が喜んで参加しました。また、保護者からの要望が高まり、2月から週1回帰りのみの送迎サービスを始めました。
- ・就労Bでは、一人ひとりの特性や得意な力を生かす他に、新しい作業にも挑戦してできることを増やすよう努めました。自主製品では、さらし布を使ったネッククーラーやマスクを開発し、売り上げも好調でした。